平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年8月9日

上場会社名　株式会社 三洋堂書店　　上場取引所　大
コード番号　3058　URL　http://www.sanyodo.co.jp
代表者　(役職名) 代表取締役最高経営責任者兼最高執行役員　(氏名) 加藤　和裕
問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長上席執行役員社長室長　(氏名) 竹林　由夫　TEL 052-871-3434

四半期報告書提出予定日　平成23年8月15日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	6,800	―	205	―	211	―	105	―
23年3月期第1四半期	―	―	―	―	―	―	―	―

(注)包括利益　24年3月期第1四半期　105百万円　(―%)　23年3月期第1四半期　―百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	18.80	18.68
23年3月期第1四半期	―	―

(注)前連結会計年度の期末より連結財務諸表を作成しているため、平成23年3月期第1四半期の数値については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第1四半期	18,339	2,912	15.7
23年3月期	18,159	2,827	15.4

(参考) 自己資本　24年3月期第1四半期　2,878百万円　23年3月期　2,798百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	―	8.00	―	9.00	17.00
24年3月期	―				
24年3月期(予想)		4.00	―	4.50	8.50

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

(注)平成24年3月期(予想)の1株当たり配当金につきましては、平成23年4月1日付で実施いたしました、普通株式1株を2株に分割する株式分割後の株式により算定しております。

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	13,500	―	80	―	56	―	8	―	1.43
通期	28,200	0.8	500	37.0	450	43.3	100	―	17.88

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	: 有
② ①以外の会計方針の変更	: 無
③ 会計上の見積りの変更	: 無
④ 修正再表示	: 無

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項 (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期1Q	5,800,000 株	23年3月期	5,800,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期1Q	207,358 株	23年3月期	207,558 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期1Q	5,592,475 株	23年3月期1Q	― 株

(注)当社は、平成23年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して前連結会計年度末に係る株式数を算定しております。なお、前連結会計年度の期末より連結財務諸表を作成しているため、平成23年3月期第1四半期の数値については記載しておりません。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の条件に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
なお、平成23年3月期(前連結会計年度)の期末より、連結財務諸表を作成しております。
2. 平成23年3月31日現在の株主に対し、平成23年4月1日付をもって、普通株式1株につき2株の割合で株式分割しております。なお、「3. 平成24年3月期の連結業績予想」の1株当たり当期純利益は、当該株式分割の影響を考慮しております。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（その他）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 7
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 8
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第１四半期連結累計期間におけるわが国経済は、足元の消費動向は小幅ながらも改善傾向が見られますが、東日本大震災による社会的インフラへの直接的被害のみならず、福島原発事故による電力供給不安や風評被害などにより、依然先行きは不透明な状況となっております。

当社グループを取り巻く事業環境につきましても、消費者の生活防衛意識や価格選好意識の高まり、書籍及びＣＤ・ＤＶＤ販売市場の縮小傾向、競合他社との競争激化などにより、引き続き厳しい状況が続いております。

このような経営環境において、当社グループは４月に瑞浪中央店（岐阜県）への古本の導入、５月に香芝店（奈良県）への古本と雑貨の導入、６月には新関店（岐阜県）に古本、雑貨、ＴＶゲームの導入を図るなど、本を中心としたブックバラエティストア化による既存店の改装を推進して、売上高と粗利益高の向上に努めてまいりました。

以上の結果、売上高68億円、営業利益2億5百万円、経常利益2億11百万円、四半期純利益1億5百万円となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

①　個人顧客事業

個人顧客事業の売上高は、東日本大震災の影響などにより雇用や所得環境への不安が一層高まり、生活防衛意識はさらに強くなっているなかで、全体では67億39百万円となり、セグメントの営業利益は2億39百万円となりました。

（書店部門）

書店部門におきましては、書籍は本屋大賞を受賞した「謎解きはディナーのあとで」やサッカー日本代表キャプテン長谷部誠の「心を整える。」などが健闘し、東日本大震災と原発関連書も話題となりましたが、昨年の「１Ｑ８４（ＢＯＯＫ３）」のような大ベストセラーに恵まれず、また、雑誌も震災の影響などにより厳しい状況で推移いたしました。

以上の結果、書店部門の売上高は43億25百万円となりました。

（文具部門）

文具部門におきましては、定番商品が堅調な売れ行きを見せたほか、ファンシーや新学期シーズンの束ノートの拡販を行ったほか、新たに雑貨の導入を２店舗で行うなどの取り組みも行ってまいりました。

以上の結果、文具部門の売上高は3億93百万円となりました。

（セルＡＶ部門）

セルＡＶ部門におきましては、東日本大震災による販売の延期などの影響がありましたが、新譜の事前予約獲得活動などにより拡販を図ってまいりました。６月にはＡＫＢ４８「ここにいたこと」や少女時代「ＧＩＲＬＳ’　ＧＥＮＥＲＡＴＩＯＮ」などＣＤのほか、ＤＶＤにおいても嵐「“Ｓｃｅｎｅ”～君と僕の見ている風景～ＤＯＭＥ＋」やＡＫＢ４８「ＡＫＢがいっぱい～ザ・ベスト・ミュージックビデオ～」、「借りぐらしのアリエッティ」などの話題商品が好調に推移して、売上を伸ばすことができました。

以上の結果、セルＡＶ部門の売上高は6億19百万円となりました。

（ＴＶゲーム部門）

ＴＶゲーム部門におきましては、ソフトでは有力な新作タイトルが昨年に比べて弱かったものの、ブックバラエティストア化の一環としてＴＶゲーム販売店を３店舗増やし、非販売店でも予約獲得を受け付けるなど積極的な予約獲得活動を実施し、チラシ配布や買取ＵＰキャンペーンなど中古ゲームの買取強化による在庫の拡充などによる拡販を行ってまいりました。

以上の結果、ＴＶゲーム部門の売上高は2億29百万円となりました。

（古本部門）

古本部門におきましては、導入店舗数を18店舗としたほか、非導入店舗におきましても68店舗で買い取りを実施しております。また、６月にはテレビＣＭを放映するなど、店頭での買取認知を向上させることによって顧客の囲い込みに取り組み、売上を伸ばすことができました。

以上の結果、古本部門の売上高は74百万円となりました。

（レンタル部門）

レンタル部門におきましては、競合他社との低価格競争は継続しておりますが、昨年から取り組んでいる準新作コーナーの充実による効果や、新作ＤＶＤの「ハリー・ポッターと死の秘宝ＰＡＲＴ１」や「借りぐらしのアリエッティ」などの話題作が牽引し堅調に推移した結果、売上を伸ばすことができました。

以上の結果、レンタル部門の売上高は10億97百万円となりました。

② 法人顧客事業

フランチャイズ契約を獲得し、４月にＦＣ店舗を開店したことから、フランチャイジーの経営指導や商品卸売販売などによる売上高は12百万円となり、セグメントの営業利益は4百万円となりました。

③ サービス販売事業

玩具自動販売機の売上が伸張したことにより自動販売機収入が増加しました。その結果、不動産の賃貸収入及び受取手数料等とあわせてサービス販売事業の売上高は48百万円となり、セグメントの営業利益は40百万円となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第１四半期連結会計期間末における総資産は183億39百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億80百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が3億48百万円増加し、建物及び構築物などの償却により固定資産が1億61百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては154億27百万円となり、前連結会計年度末に比べ96百万円増加いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金が2億96百万円増加し、長期借入金が返済により2億25百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては29億12百万円となり、前連結会計年度末に比べ84百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益の計上などにより利益剰余金が79百万円増加したことによるものであります。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

当第１四半期連結累計期間の連結業績は、損益面において好調に推移しておりますが、当社グループを取り巻く事業環境は厳しい状況が続いているうえ、急激な円高による景気下押しの懸念もあります。したがいまして、平成24年３月期の連結業績予想につきましては、平成23年５月13日に公表しました第２四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想から変更しておりません。

なお、今後、連結業績予想に関し修正の必要が生じた場合には、速やかに開示する予定です。

２．サマリー情報（その他）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（１株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用）

当第１四半期連結会計期間より、「１株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第２号　平成22年６月30日）、「１株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第４号　平成22年６月30日）及び「１株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第９号　平成22年６月30日）を適用しております。

潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額の算定に当たり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成23年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,424,686	1,773,282
売掛金	71,200	63,951
商品	5,780,528	5,760,894
その他	414,593	434,596
流動資産合計	7,691,009	8,032,724
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,297,795	4,202,434
土地	2,780,591	2,780,591
その他（純額）	593,679	557,390
有形固定資産合計	7,672,066	7,540,416
無形固定資産	567,066	549,068
投資その他の資産	2,228,866	2,217,118
固定資産合計	10,467,999	10,306,603
資産合計	18,159,009	18,339,327
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,087,183	9,383,184
短期借入金	200,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	853,168	853,168
未払法人税等	159,861	77,386
賞与引当金	72,426	47,512
ポイント引当金	193,590	191,480
資産除去債務	2,000	3,005
その他	427,843	469,706
流動負債合計	10,996,072	11,325,443
固定負債		
長期借入金	3,425,748	3,199,956
退職給付引当金	349,116	339,921
資産除去債務	535,379	537,033
その他	24,964	24,964
固定負債合計	4,335,208	4,101,875
負債合計	15,331,280	15,427,318

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成23年６月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,200,100	1,200,100
資本剰余金	927,033	927,033
利益剰余金	817,358	897,282
自己株式	△178,917	△178,745
株主資本合計	2,765,574	2,845,671
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	32,459	32,914
その他の包括利益累計額合計	32,459	32,914
新株予約権	29,694	33,422
純資産合計	2,827,728	2,912,008
負債純資産合計	18,159,009	18,339,327

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第１四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	当第１四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年６月30日）
売上高	6,800,843
売上原価	4,734,248
売上総利益	2,066,595
販売費及び一般管理費	1,861,410
営業利益	205,185
営業外収益	
受取利息	1,526
受取配当金	1,923
受取保険金	16,829
その他	4,267
営業外収益合計	24,546
営業外費用	
支払利息	17,224
その他	927
営業外費用合計	18,152
経常利益	211,579
特別利益	
固定資産売却益	249
特別利益合計	249
特別損失	
固定資産除却損	10,984
特別損失合計	10,984
税金等調整前四半期純利益	200,844
法人税、住民税及び事業税	70,973
法人税等調整額	24,749
法人税等合計	95,722
少数株主損益調整前四半期純利益	105,121
四半期純利益	105,121

（四半期連結包括利益計算書）
（第１四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	当第１四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年６月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	105,121
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	454
その他の包括利益合計	454
四半期包括利益	105,576
（内訳）	
親会社株主に係る四半期包括利益	105,576
少数株主に係る四半期包括利益	－

（３）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。